

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	情操教育推進事業			会計	款	項目	大専	小専
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	指導課			
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	笠井 善亮			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内小中学校児童生徒	意図	児童生徒の情操を養い、豊かな心情を培う。
事業内容	学校が意図的・計画的に企画する映画鑑賞、コンサート、観劇等を通し、児童生徒の情操を養い、豊かな心情を培えるよう支援する。			
事業開始から現在までの状況変化	平成22年度に事業がスタートし、7年目となる。市内小中学校からの要望が多く、さまざまな活用方法を展開しようと試みてきた。その結果、多くの学校で定着した行事になりつつあり、児童生徒、保護者からも好評である。参加した児童生徒は、本物の芸術に触れることで、心豊かな時間を過ごすことができている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	観劇参加数	4,362	3,764	3,403	人	↗↗
②	音楽鑑賞参加数	3,528	4,979	6,769	人	↗↗	
③	その他参加数	0	691	634	人	→→	
④							
⑤							
⑥							

  

指標で表すことができない定性的な成果	学校が生が芸術に触れることができる機会を設けているので、情操教育の一端を担うことができ、児童生徒の豊かな心情が育ってきている。	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）		
事務事業のコスト	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成25年度は希望が市内の小中学校のほぼ半数からあり、観劇が5校、音楽鑑賞が5校、講演会が1校と多様であった。事業が5年目になった26年度は、観劇7校、音楽鑑賞6校であったが、希望する学校が多く、残り3校には、配分ができなかったため、予算の拡充を図り、希望する学校は増加している。28年度は、観劇5校、音楽鑑賞10校、講演会1校、計16校と前年度より1校増加し、希望する学校すべてに予算配当した。今後も、学校のニーズに応えながら、児童生徒の情操教育の充実に努める。
事務事業の総コスト(a=b+c)	4,080,300	4,584,900	4,365,450	
事業費(b)(円)	1,800,000	2,100,000	2,100,000	
うち一般財源	1,800,000	2,100,000	2,100,000	
職員給与費(c)(円)	2,280,300	2,484,900	2,265,450	
人役・職員(人)	0.33	0.33	0.33	
人役・再任用(人)				
人役・臨職(人)				
人役・嘱託(人)				
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）				
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）				

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
				コストの削減	A 削減の余地はない	
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H28)の改善計画	児童生徒の情操をより豊かにするために、学校が意図的・計画的に情操教育推進事業を企画し、推進する。	③取組の課題	情操教育推進事業の内容を充実させ、学校のニーズに応える。
②今年度(H28)に実施した取組	今年度は16校で情操教育推進事業を実施し、充実した取り組みを行うことができた。	④今後の改善計画	市内の小・中学校にできる限りの配当ができるように予算配当を進める。